

ほろ
たま展 2015

発掘!

古
の
名
品
展

く眠りから覚めた地中の語り部たちく

いにしえ



旧石器時代

土器の発明以前、石や木の道具を使っていた時代の総称です。県内最古段階の石器は、^{すえの}寄居町末野遺跡や^{せいがんじまへはら}さいたま市清河寺前原遺跡などで発見されており、約3万年前のものと考えられています。



ナイフ形石器

^{せいがんじまへはら}さいたま市 清河寺前原遺跡

天然ガラスとも言われる黒曜石製。切るだけでなく槍先のような使い方をしたと思われる。

長さ 6.1 cm (左端)



^{せつごうしりょう}接合資料 (黒曜石)

^{せいがんじまへはら}さいたま市 清河寺前原遺跡

旧石器時代の人々が石器を作った跡で発見された。割られた破片を組み立てることで、原石を割った順番を知ることができる。 幅 16.5 cm

縄文時代

今から約 13,000 年前といわれる縄文土器の出現以来、一万年間以上も続いた狩猟・採集の時代です。長い時の中で、各地の文化は交流しながらゆったりと変化していきます。



深鉢 (人体文土器) 縄文時代中期

^{きたつかや}寄居町 北塚屋Ⅱ遺跡

両手を広げて足を閉じる人体をデフォルメしたデザイン。出産の表現との解釈もある。

高さ 35.5 cm



トロフィー型土器 縄文時代中期

^{まへはら}桶川市 前原遺跡

^{ひさご}瓢形の壺に台が付いた器形で、類例の少ないトロフィー形の土器。住居跡の炉の中から出土している。 高さ 32.5 cm (推定高)



耳飾り 縄文時代晩期

あかぎ
鴻巣市 赤城遺跡

縄文時代の数少ない土製装身具だが、これは特に大型の優品。耳たぶにあけた大きな穴に嵌めたものと考えられている。 直径 7.1 cm



ませいせきふ
磨製石斧 縄文時代晩期

ながたけ
加須市 長竹遺跡

深緑色の美しい石材は透閃石岩で、固くて重く、衝撃に強い。優美な曲線の仕上がりには、縄文人の道具に対するこだわりが感じられる。
長さ 13.3 cm / 幅 6.7 cm / 重さ 467g



ちゅうこう
注口土器 縄文時代後期

なかさんや
鴻巣市 中三谷遺跡

そろばんだま
算盤玉状の胴部に曲線的な橋状把手を付け、器面を黒色処理した祭祀用の土器。
幅 23.5 cm / 高さ 19 cm



人面付土器 縄文時代晩期

あかぎ
鴻巣市 赤城遺跡

小型土器の上部に、粘土紐で眉・目・鼻・口の表現がある。デフォルメされ過ぎず、とぼけた表情に心が和む。
高さ 16.5 cm



新たに米作りと金属器の技術が伝えられた時代です。それは、新しいデザイン、新しい思想とともに、それまでの縄文文化とも融合しながら日本列島に浸透していきます。



くだたま 極細の管玉 弥生時代中期
熊谷市 北島遺跡

糸を通して使う装身具だが、いずれも外径2mmほどと極めて細く、片側から穿たれた孔が貫通する。
石材は、緑色の碧玉と赤玉石。



ひつぎ 大型壺（棺の土器） 弥生時代後期
東松山市 反町遺跡

大型の壺で、細長い頸と下膨れの胴部に赤彩が施される。
墓壇の中に横たえられた状態で出土した。
高さ 70.5 cm / 最大幅 46.8 cm



壺（赤い土器） 弥生時代後期
さいたま市 大木戸遺跡

胴部下半が大きく張った壺で、底部に向けて急激にすぼまる器形は、東海地域の流れを汲む。頸と胴部は真っ赤に塗られている。 高さ 37.3 cm / 最大幅 35.2 cm



むけいつぽ 無頸壺 弥生時代後期
坂戸市 花影遺跡

算盤玉形の器形に縄文帯と赤彩帯を交互に配する美しい壺。上端には、2つの小孔が対の位置にかけられている。 高さ 15 cm / 最大幅 18 cm

生産性の向上に伴って有力者が現れ、各地で大規模な墳墓が造られた「王の時代」です。埴輪や勾玉をはじめとするきらびやかな副葬品が目を惹きます。



男子埴輪

鴻巣市 新屋敷遺跡

二又の被り物を被り、長い美豆良を結っている男子。腰には鎌を下げ、踊るようなしぐさをしている。高さ 66.3 cm



馬形埴輪

熊谷市 北島遺跡

馬具を身につけた飾り馬。当時の馬は最速の移動手段であり、権威を知らしめる乗り物でもあった。

復元高 79 cm / 復元幅 74 cm



勾玉・ガラス小玉

深谷市 小前田古墳群

身分の高い貴人を飾ったネックレス。埴輪では男女の区別なく身に着けている。勾玉はメノウ製。



土師器壺

東松山市 下道添遺跡

方形周溝墓から出土した壺。帯状に細かい櫛描文が施され、全体が赤く彩色されていて美しい。お供え専用の土器として、焼く前に底に穴があけられている。高さ 19 cm / 口径 18 cm



須恵器提瓶

美里町 一本松古墳

持ち手に紐をつけて提げ、水筒として使われたと考えられている。窯の中で焼かれたときについた自然釉（燃料の薪の灰が高温で溶けたもの）が、いい景色をかもしだしている。

高さ 19.8 cm / 口径 7.2 cm



律令体制（りつりょう 法治国家）が進展する奈良・平安時代です。
 ほぼ 400 年という長い時間の中で、中央で花開いた貴族の文化が地方にも波及していきます。



(表)

(裏)

ようたいぐ 腰帯具 平安時代

はちじょう 八潮市 八條遺跡

古代の役人のベルトにつけられた飾り。半円形のを丸軻（上 長さ 2.6 cm）、ベルトの先端に着けたものを鉋尾（下 長さ 5.7 cm）と呼ぶ。身分によって材質や色が決められていた。蛇紋岩製。



かんざし 簪 平安時代

しょうげんづか 本庄市 将監塚・古井戸遺跡

めっき 銅の地に金鍍金が施された金銅製品である。
 頭部が欠けているが精巧な作りである。

長さ 8.2 cm



つぼあぶみ 壺 鐙 奈良時代

しもだまち 熊谷市 下田町遺跡

馬に乗る時に足をかける道具。奈良時代の井戸跡から発見された。材質はクスノキで、黒漆が塗られた高級品である。

高さ 21.8 cm / 長さ 14.5 cm / 幅 16.6 cm



りよくゆうとうきりんかわん 緑釉陶器輪花碗 平安時代

きたじま 熊谷市 北島遺跡

なまりゆう 緑色の鉛釉が施された陶器で、口の四ヶ所に指でつまんだようなへこみがある。愛知県の猿投窯でつくられた。

高さ 7.7 cm / 口径 18.5 cm



みなものよりとも
源頼朝の拳兵から明治維新までの、言わば「武士の時代」です。
現代文化の底流となる鎌倉、南北朝、室町、そして江戸の各文化が育まれました。



けびょう こんどう
花瓶（金銅製）13世紀

東松山市 反町遺跡

無傷で腐食もなく、均整のとれた
美しい姿を保つ仏教用具（花器）
高さ 8.9 cm / 重さ 92.9 g



そんしきけびょう かいゆう
尊式花瓶（古瀬戸 灰釉）

14世紀末葉～15世紀初頭

深谷市 砂田遺跡

古代中国の青銅製酒器である「尊」に似ている
のでこの名がある。仏教道具（花器）で、同時
期の製品の中でも特に姿が優美。

高さ 16.8 cm / 口径 13.6 cm



ちん
独（土製 玩具）19世紀前半

川越市 川越城跡

ひな祭りなど、節句用の飾り物として作られ
た玩具の一種。巻いた尾と表情が愛らしい。
高さ 16 cm



しんぞう
神像（青銅製）室町～江戸時代

坂戸市 塚の越遺跡

どのようにまつられたのか不明だが、
これだけ小さい神像は他に類例がない。
胸の前で笏（しゃく）を持ち、頭には冠をかぶる。
高さ 4.6 cm / 重さ 55 g

秩父 矢尾百貨店

平成 27 年 8 月 6 日（木）～ 10 日（月）

そごう大宮店

平成 27 年 8 月 14 日（金）～ 16 日（日）

熊谷 八木橋百貨店

平成 27 年 8 月 19 日（水）～ 25 日（火）

埼玉県立さきたま史跡の博物館

平成 27 年 12 月 12 日（土）～

平成 28 年 2 月 14 日（日）

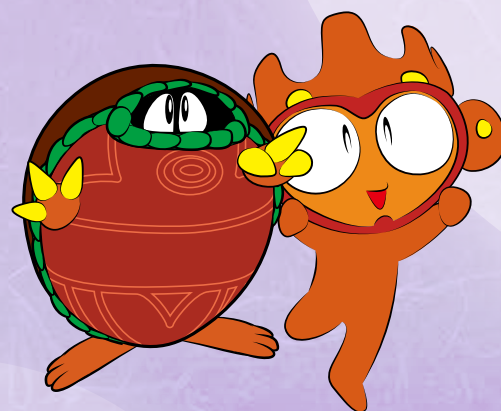
主催／公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催／埼玉県教育委員会・埼玉県立さきたま史跡の博物館

後援／熊谷市教育委員会・秩父市教育委員会

協賛／小鹿野町教育委員会・株式会社矢尾百貨店

そごう大宮店・株式会社八木橋



く眠りから覚めた地中の語り部たちく

発掘！

古いにしえの名品展

平成 27 年 8 月 3 日発行

編集・発行

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目 4 番地 1

TEL 0493-39-3955

<http://www.saimaibun.or.jp>